

平成7年度少年水産教室開催（池間中学）

1. 目的

義務教育課程にある児童生徒を対象に、水産に関する基礎的知識の習得と伝統のある池間島のカツオ漁業を体験することによって、地域の漁業を理解させるとともに、児童生徒の健全育成を図る目的で少年水産教室を開催する。

2. 教室名：カツオ漁業体験学習

実施対象：池間中学校生徒全員

3. 開催日時

平成7年7月13日（木）

4. 実施場所

池間島沖合

5. 内容及び注意事項

(1) カツオ釣体験学習

男子生徒は、3隻のカツオ漁船に5人ずつ乗り

こんでカツオの餌とり体験と、カツオ釣り体験学習をおこなう。

カツオ釣り漁業の指導は各漁船の船長が行い、乗船中は船長の指揮にしたがう。

乗船中は、船内を走り回ったり、ふざけた行動をとらないこと。

*泳ぎに自信のある生徒はエサ取り体験もおこなう。

*生徒が準備すべきもの

汚れても良い服装で長そでのTシャツ。海水パンツ、水中メガネ。タオル、ゴムズーリ、帽子。

*各漁船は、沖の状況、漁の模様、生徒の船酔いの状況、入港の時間などを無線で情報交換を行うこと。

*当日（7月13日）宮古島気象台の気象予報で海上波浪注意報がでたときは、体験学習を延期する。予報確認は、前日の午後4時までに宮古支庁が確認する。

(2) カツオ釣体験学習日程表

| 時間 | 行程 | 内容 | 備考 |
|-------|---------|---------|--------------|
| 5:00 | 池間漁協前集合 | 乗船の心得説明 | |
| 5:30 | 池間漁港出港 | 出航後朝食 | 朝食の準備手伝い |
| 6:00 | エサ場到着 | エサ取り体験 | 泳げる生徒はエサ取り参加 |
| 8:00 | エサ場出港 | | |
| 10:00 | | | |
| ↓ | カツオ釣り体験 | | 大漁 |
| 17:00 | | | |
| ↓ | 池間中学校 | さしみを囲んで | |
| 17:00 | | 反省会 | |

(3) 乗船割り当て表

| 船名 | 船長名 | 中学生氏名 | 住所 | 電話 | 監督者 |
|-----------------|-------|--------|------------|----------|---------------|
| 吉進丸 (12.9 t) | 伊良波 進 | 野原 勝敏 | 池間 155 | 5 - 2800 | 照屋 盛 長 嶺 巖 |
| | | 伊良波 忍 | 池間 114 - 7 | 5 - 2205 | |
| | | 仲原 良修 | 池間 132 - 3 | 5 - 2438 | |
| | | 勝連 俊博 | 前里 88 | | |
| | | 井本 敬太 | 池間 186 | 5 - 2273 | |
| 宝幸丸 (19 t) | 浜川 | 佐久本 大介 | 前里 28 | 5 - 2561 | 仲宗根 正治 |
| | | 寄川 秀彦 | 池間 144 | 5 - 2443 | |
| | | 浜川 聖 | 前里 151 | 5 - 2037 | |
| | | 勝連 宗太 | 前里 44 | 5 - 2322 | |
| | | 佐渡山 康幸 | 前里 75 - 1 | 5 - 2341 | |
| | | 勝連 大作 | 前里 88 | 5 - 2004 | |
| | | | | | |
| 八幸丸 (15 t) | 仲間 淳 | 仲間 克年 | 池間 175 - 1 | 5 - 2127 | 徳元 清政 |
| | | 伊良波 常博 | 前里 241 | 5 - 2843 | |
| | | 勝連 歩 | 前里 43 | 5 - 2303 | |
| | | 吉浜 拓也 | 池間 62 | 5 - 2237 | |
| | | 西里 健吾 | 池間 108 - 1 | 5 - 2545 | |
| | | | | | |

さおがまがる、

かつおは、そらで、鳥になる。

句：親 泊 祐 之

(4) カツオ加工体験学習

の指導にしたがう。

女子生徒は、島内3カ所のカツオ加工場でカツオの解体、加工の実習をおこなう。カツオ解体処理の指導は工場長がおこない、工場内では工場長体験学習場所

*汚れても良い服装。ゴムゾーリ、タオルを準備すること。

| 池間漁協協同加工場 (5-2521) | | | | | |
|--------------------|-----------|----------|--------|---------|--|
| 工場長名 | 中学生氏名 | 住所 | 電話 | 監督者 | |
| | 山口 千恵子 | 前里 33-11 | 5-2612 | 与那嶺 | |
| | 奥 平 葵 | 池間 71-1 | 5-2848 | 石 垣 | |
| | 川 満 理 那 | 前里 272 | 5-2316 | 鳩 間 用 一 | |
| | 松 川 裕 美 | | 5-2354 | | |
| | 新 城 忍 | 前里 242 | 5-2164 | | |
| 丸良加工場 (5-2075) | | | | | |
| 工場長名 | 中学生氏名 | 住所 | 電話 | 監督者 | |
| | 井 本 千 草 | 池間 196 | 5-2069 | 玉 城 | |
| | 友 利 千 恵 | 池間 66 | 5-2170 | 下 地 | |
| | 仲 間 麻 美 | 池間 61 | 5-2059 | 松 江 | |
| | 仲 間 寿 江 | 池間 175-1 | 5-2127 | 友 利 | |
| | 本 村 万 寿 美 | 池間 172 | 5-2320 | | |
| 丸満加工場 (5-2525) | | | | | |
| 工場長名 | 中学生氏名 | 住所 | 電話 | 監督者 | |
| | 山 口 瞳 | 池間 151-2 | 5-2342 | 平 岡 | |
| | 新 城 清 美 | 前里 242 | 5-2164 | 奥 平 | |
| | 与那覇 美 香 | 前里 215 | 5-2715 | | |
| | 奥 浜 香 澄 | 前里 265-1 | 5-2040 | | |
| | 与那原 郁 美 | 前里 241 | 5-2431 | | |

(5) 加工場体験学習日程

- 8:30 池間中学校集合
- 9:00 各割り当て加工場到着 工場長より作業の説明を受ける
- ↓ カツオの加工実習
- 12:00 昼 食
- 13:00 カツオ解体体験学習
- ↓
- 16:00 終了後あとかたづけ
- 17:00 池間中学校でさしみを囲んで反省会

(6) 受講料 (教材費含む) : 無料

報告する。

(7) 障害保険料 : 1人当たり 513円

*はじめはよろしくお願ひします。おわりはお礼の言葉を全員で元気よくあいさつすること。

(池間中学校負担)

(8) 少年水産教室終了後体験、感想を作文にして

カツオ漁業体験学習(カツオ釣体験)

6. 経過報告

7月12日、池間中学校の理科教室で全生徒を対象にオリエンテーションも兼ねて事業の概要と注意事項の説明を行う。生徒達は、はじめての体験とあって決意表明を行うなど、期待に胸が膨らんでいるようであった。

7月13日、午前4時30分池間漁協セリ市場前に集合。各班(漁船別)の班長が点呼を行って、船長に報告したあと、カツオ漁船3隻に分乗して午前5時30分に池間漁港を一斉に出港し、カツオ釣りの餌場に向かう。その途中で朝食をとる。

午前6時30分、餌場である伊良部島南側のサンゴ礁域(通称:マツビジ)に到着。3隻とも同じ餌場でカツオの餌に使うバカジャグを敷網で採取した。

バカジャグのとり方は、水深3m程度のリーフの上に敷網をセットして8人のおい手がおどし、竿をもって泳ぎながらバカジャグを網に追い込む方法で採取していた。

1回の追い込む時間は5分程度、14回網をいれるとカツオ漁船(吉進丸)のイケス2つに満杯の餌が採取できた。今年は餌は多いようである。

午前7時40分:餌場を出港して一路漁場に向かう。

私が乗った吉進丸には、中学1年生2名、2年生1名、3年生2名と照屋盛教頭先生が乗船、餌場を出港して沖合いにでると、船酔いする生徒が3名いてかわいそうな気がする。

午前9時20分、双眼鏡でカツオ鳥を探していためがね係からヤグミツイマツドウ(すごいカツオ鳥の群を発見との意味)と叫ぶ。船主船頭の伊良波進指導漁業士は舵をとり、鳥山に向かって全速力で船を進めながらトビダイ(大きいカツオ)の群だと操業準備といきり立つ。船酔いで寝ていた中学生、先生も起きてカツオの群に心を躍らせて船酔いもふっとぶ。

餌巻きがエサのバカジャグをまくと、カツオは

エサを食べているが、船の近くまでなかなかよらない。

同じ群で3回試みたが、結局エサが無駄になるだけで1匹も釣れず全員がっかり、船頭は、失敗したなーといて、船をパヤオに向ける。

エサも少なくなったから小さいカツオでも体験させるため、伊良部島北側のパヤオ(伊良部漁協4号)で操業することにした。

午後2時5分、パヤオ到着。エサをまくと早速カツオ、キメジがどんどん釣れる。中学生にも、伊良波漁業士と私が指導してカツオ釣り体験をさせることにした。

3年生は船首、1・2年生は船尾で釣った。最初は5kg程度のキメジに手こずっていたが、慣れてくると一気につり上げるようになった。3年生はさすがに力があり5匹釣った生徒もいた。

約1t程釣ったところでエサ切れとなって操業を終了、帰路につく。その後魚を魚槽に片づけたり、デッキを掃除したあと、全員で遅い昼食をたべる。

釣ったばかりの山盛りのカツオ刺身を囲んで釣り談義に花がさく。船では船員の役割が決まられていて、エサまきの係りはエサの上手なまき方をえんえんと話す。

えさとりの責任者はエサ場の話、メガネ係は鳥山の話、カツオ釣りの上手い人は釣り方の話と、釣る体験より食事中の経験談がおもしろく中学生もおじさん達にからかわれたり、ほめられたりにとぎやかであった。

午後4時50分、池間島近くのイラビジ(リーフ)を過ぎると船頭の長男満也が大漁旗をあげている。今日は不漁だが景気づけに旗を沢山あげて帰ろうかと中学生に冗談をとばす。旗を1つあげたあと、スピーカーから縁起の良い「祝い船」の演歌が流れ、いよいよ入港である。

午後5時00分、3隻のうち2番目の入港、船から手を振る生徒達、港棧橋で出迎える女子中学生

やお母さん達、先生方先に入港した八幸丸の船員、生徒達島中あげての歓迎に感動を覚えた。

水揚げを終わって、記念撮影、生徒たち全員にカツオ2匹ずつお土産に配られ、解体は自分でやれよと指導漁業士の伊良波進さんの激励に満足感が漂う。

午後7時、最後に宝幸丸が大漁旗をなびかせて入港すると栈橋はあふれんばかりの島人が出迎え握手を繰り返す生徒、先生、船員達は始めて水産教室を取り組んでよかったと思った。

7. 所 感

当初は、夏休み期間中に少年水産教室を開催したい旨、池間中学校に企画説明したところ夏休みは学校の都合で無理、生徒の監督ができないとの話があった。

幸いにして、池間中学校は県教育庁から「島の自然と文化」というテーマで研究校に指定されているので、夏休み前に少年水産を開催してもらえないかとの要望があり共催で開催することになった。

開催までは、学校、PTA、受け入れ船主、加工場と3回の打ち合わせを行って開催にこぎつけ

地域ぐるみで開催する事ができた。

これまでの水産教室は、中学の男子生徒を対象に、水産に関する基礎的な知識を広め後継者づくりを目的に開催していた。

今回は、島の漁業を体験することによって、水産産業を理解してもらおう啓蒙活動を主眼において取り組んだ。

比較して考えてみると、今後の水産教室は、学校教育現場との連携、授業での位置づけをおこなって、理解を深めながら漁業現場を体験し、地域ぐるみで水産産業に興味を引き出す活動へと転換したことに成果があったと思う。

反省点としては、当初予算に傷害保険料を計上しなかったこと、反省会で生徒たちの安全のためにカツオ釣体験時のライフジャケット(救命胴衣)を着用させること。加工場での体験プログラムの作成などが今後の課題である。

今回の水産教室は、中学校の先生、PTA役員、池間漁協をはじめ、宝幸丸、八幸丸、吉進丸のカツオ漁船の船主、船長の協力、丸満、丸良、池間共同加工場の場長、指導漁業士の伊良波進氏には計画から取り組みまで指導助言を頂き大変ありがとうございました。

カツオ漁業体験学習（カツオ節工場）

1. 目的

義務教育課程にある児童生徒を対象に、水産に関する基礎的知識の習得と、伝統のある池間島のカツオ漁業を体験することによって、地域の漁業を理解させるとともに、児童生徒の健全育成を図る目的で少年水産教室を開催する。

2. 教室名：カツオ漁業体験学習

実施対象：池間中学校生徒全員

3. 開催日時：平成7年7月13日（木）

4. 内容

(1) カツオ釣体験学習

男子生徒は、3隻のカツオ漁船に5人ずつ乗り組んでカツオの餌とり体験と、カツオ釣り体験学習をおこなう。

(2) カツオ加工体験学習

女子生徒は、島内3カ所のカツオ加工場でカツオの解体、加工の実習をおこなう。

カツオ解体処理の指導は工場長がおこない、工場内では工場長の指示にしたがう。

5. 過程報告

丸吉加工場において

午前8：00に集合し、昨日とれたカツオを那覇に送る梱包作業を手伝った。女子生徒ながらなかなかテキパキと動いていた。

梱包作業は、9：30分位に終了した。本来ならばここからカツオ解体の作業が始まるのだが、材料のカツオがないということで生徒を丸満工場に移動させ、カツオの解体実習をおこなった。

寛雄工場において

午前8：00に集合し、8：30から釜の中の鰹節を並べ替える作業をおこなった。その後、寛雄工場での作業は午後からということで全員丸満工場

に集合し、カツオの解体をおこなった。

丸満工場において

午前8：00に集合し、8：30から作業がはじまった。まず、乾燥させた鰹節の骨抜きと、カツオを解体する作業を同時並行でおこなった。生徒はまず骨抜き作業をおこなってそれから解体作業に移った。

解体作業は、今日は作業のない丸吉工場に割り当てられた生徒と、作業を午後からおこなう寛雄工場の生徒を集め全員でおこなった。

実習中の生徒たちは頭を切り落とす作業に苦労している様子であった。また、生徒だけではなく先生らも楽しそうに解体実習をしていた。工場職員と比べると上手とはいえないが、立派に製品になるものもあった。

解体実習の最中になるが、骨抜きの終わった鰹節を燻すために釜に運んだ、生徒らは梯子を使ってバイカン室に入る者、外からこわごわ見る者様々であった。

火で燻す時に鉄の円盤条の物を上から吊るしてあるのだが、これは火力が均一にいわたるように吊るしてあるとのことであった。

燻す時間は約2週間と言うことを聞いて、生徒たちは鰹節が出来上がるまで時間がかかるのに驚いたようであった。

以上が3工場での経過であるが、生徒達は解体作業に思いのほか興味を示し、鰹節をつくる工程の勉強の方はおろそかになってしまい、生徒全員が鰹節の種類（本節、亀節、雄節、雌節）の違いを理解するまでには至らなかったと思うが、鰹節が完成に至るまでには多くの過程と時間を経ているのだということを理解したと考えられる。

体験学習は午後3：00頃には終了し、後は男子生徒の乗ったカツオ船の入港までの間は自由時間となった。

カツオ工場

3年 奥平 葵

私は、朝8時半過ぎてから、今日一日お世話になる丸満工場に入っていました。工場では、もうカツオの頭を切り取っていました。向こうの方では女の人達が、カツオの骨抜きをしていました。みんな慣れた手つきで、手ぎわよく仕事をしていました。私も、カツオの頭を切り取る作業をさせてもらいました。

初めに目玉を切って、その中に指をつっこんで、えらを開け、指を入れました。目玉に指を入れるのは、固定するためだということを初めて知りました。

途中まではできたけれど、最後の方ではつかえてなかなか切れませんでした。何とか頭を切り取ることができたので、うれしかったです。

頭を切り取る作業は、だいたい9時ぐらいで終わると聞いておどろいた。

向こうで、けむりが出ていたので行ってみると、骨ぬきしたカツオを乾燥させていた。

火が出ている所に、上から鉄板みたいなものをつるしていた。あれは、温度が一定するためのものと聞きました。また、これを二週間くらい火を燃やし続けるということも聞きました。

私は、カツオ節が出来るまで、時間がすごくかかるなぁと思いました。

昼食はとてもおいしかったです。

午後1時から、背ビレを取って三枚におろす作業でした。背ビレを取るの初めは難しかったけど、だんだん出来るようになりました。

三枚におろす作業では、骨にあまり身をつけないようにすることが目標だったけども、骨には身がたくさんついていました。少しでも、骨に身をつけないように軽く包丁を入れた。そして、包丁をその分けた所に入れ、最後までおろした。

初めは、骨に身がたくさんついてできなかった。でも、何回もやっていくうちに、何とか骨と身がきれいに分けられるようになった。その時は、とてもうれしかった。

あの時のことは、今でも忘れていません。とても良い体験だったと思います。

カツオ釣り

1年 仲原 良修

僕は、朝の4時半に起きて港へ行きました。

5時半に、僕たちの船は出港してエサ場にむかいました。途中、船の上で食べたさしみとおつゆの味が忘れられません。

エサ場に着くと、さっそくおじさん達が海に飛び込みました。エサをみんなで囲んで追い込んでいるときには、さすが漁師だなーと思いました。

2時半ごろ、やっとカツオの群れに出会った。カツオを釣るときはとても楽しかった。きつかったけど、また来年もぜひ行きたいと思いました。

カツオ漁体験学習

1年 西里 健吾

僕は、カツオを釣りに行った。まず、最初にすることはエサとりだ。おじい達が一生懸命網を引っ張っていた。エサがとれて、後はカツオを釣るだけだ。

カツオをさがす間、船が激しく左右にゆれる。途中で気持ち悪くなったが、顔に出さないようにがんばった。

そして、おじい達とご飯を食べた。とてもおいしかった。

少し休んでいると、おじい達のさけび声が聞こえた。「いた。」僕は言った。すぐ近くにカツオ鳥がたくさん飛んでいた。船はすごい勢いでカツオ鳥の方へ向った。そして、近くでジャグをまきはじめた。すると、カツオが「ジャブ、ジャブ」と音をたててエサに向ってつっこんできた。

おじい達は、エサもつけない釣り針に糸をつけて、ジャグのある方へなげた。おじい達は、左右にゆっくりと竿を動かしていた。何をしているんだらう？とっていたら、とつぜん海からカツオ

がとんできた。飛んできたと思ったら、おじい達がすごい速さで釣りあげている。

一本釣りは、とってもかっこよかった。

「カツオが空で鳥になる」という詩を思い出した。一本釣りをして、カツオが空中でバタバタバタバタとあばれていた。

僕は、初めてこんなにたくさんのカツオを見た。僕達は、大漁旗を二つあげて胸を張って帰った。

宝幸丸は一番で帰ってきた。先生や女子たちが暖かくむかえてくれた。陸に上がった時、とても安心した。

今回は釣れなかったけど、来年こそは大きなカツオを釣りたいと思います。

そして僕は、漁師達もがんばっているんだと感じました。僕は、カツオ釣りに興味感を持ちました。

カツオ加工体験学習の感想

1年 川 満 理 那

7月13日に、「カツオ加工体験学習」をしました。

初めは、「こんなことできるかー。やりたくない。」と思っていました。でも、やってみると、なかなか楽しかったです。

私達は、最初にワラヌキという小骨を取り除く作業をしました。おばさん達がいねいに教えてくれたので、すぐに慣れ、この作業は上手にできました。

次に、シガーという背びれ、下びれを切る作業をしました。とてもむずかしくて、「もう、できないよー。」と思っていると、一人のおじさんが「少しづつやっているうちに、だんだん上手になっていくんだよ。」と言っていました。私は、何匹かやっていくうちに、だんだんうまくできるようになり、一人でもできるようになりました。

今度はミオロンという、魚を縦に二分し尾から切る作業をしました。この作業はとてもおもしろくて、商品物もさばいてしまいました。

初めに、「おもしろくない。」とか、「やりたくない。」とか言っていた自分が、今になって笑いながら楽しく作業しているのに気づきました。

そして、どんなにむずかしいことでも、やればできるということをあらためて知りました。

今度の「カツオ加工体験学習」は、自分のためになりとても貴重な体験をしたと思います。また、やってみたいと思いました。

そして、池間島の文化をこれからも大切にしていきたいと思います。

